

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成18年8月10日(2006.8.10)

【公開番号】特開2002-208307(P2002-208307A)

【公開日】平成14年7月26日(2002.7.26)

【出願番号】特願2001-196725(P2001-196725)

【国際特許分類】

**F 2 1 V 8/00 (2006.01)**

**G 0 2 B 5/02 (2006.01)**

**G 0 2 B 6/00 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/13 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/133 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/1334 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/1335 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/13357 (2006.01)**

**G 0 2 F 1/13363 (2006.01)**

**G 0 9 F 9/00 (2006.01)**

**G 0 9 G 3/20 (2006.01)**

**G 0 9 G 3/34 (2006.01)**

**G 0 9 G 3/36 (2006.01)**

**F 2 1 Y 101/02 (2006.01)**

【F I】

F 2 1 V 8/00 6 0 1 A

F 2 1 V 8/00 6 0 1 B

F 2 1 V 8/00 6 0 1 C

G 0 2 B 5/02 B

G 0 2 B 6/00 3 3 1

G 0 2 F 1/13 5 0 5

G 0 2 F 1/133 5 0 5

G 0 2 F 1/133 5 3 5

G 0 2 F 1/1334

G 0 2 F 1/1335 5 1 0

G 0 2 F 1/1335 5 2 0

G 0 2 F 1/13357

G 0 2 F 1/13363

G 0 9 F 9/00 3 3 6 H

G 0 9 F 9/00 3 3 6 J

G 0 9 G 3/20 6 1 2 U

G 0 9 G 3/20 6 4 2 A

G 0 9 G 3/20 6 4 2 P

G 0 9 G 3/20 6 8 0 T

G 0 9 G 3/20 6 8 0 V

G 0 9 G 3/34 J

G 0 9 G 3/36

F 2 1 Y 101:02

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月15日(2006.6.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】手続補正書  
【補正対象項目名】手続補正 2 8  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【手続補正 2 8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 8 3  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0 0 8 3】

また、本発明に係る照明装置は、光源と、該光源からの光が出射する光出射面とを備えた照明装置において、上記光源からの光を上記光出射面へ導く導光板と上記光出射面の輝度分布を変化させる輝度分布変更手段とを有し、上記光源からの光が端面から入射するよう上記導光板が配置されるとともに該導光板の一方の主面から出射する光が該一方の主面に戻るように反射面が形成されることによって、該導光板の他方の主面が上記光出射面を構成し、上記輝度分布変更手段が、上記導光板によって導かれる光の上記光出射面から見た散乱割合の分布を変化させる散乱割合分布変更手段で構成されてなり、上記散乱割合分布変更手段が、上記導光板の一方の主面に分布するように形成された第 1 の散乱領域と、上記導光板の一方の主面と上記反射面との間を通過する光を切替により散乱又は透過する散乱制御構造と、上記反射面に分布するように形成された第 2 の散乱領域とを備えてなるものである（請求項 2 9）。

【手続補正 2】  
【補正対象書類名】手続補正書  
【補正対象項目名】手続補正 2 9  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【手続補正 2 9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 8 4  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0 0 8 4】

かかる構成とすると、用途に応じて、光出射面の輝度分布を所要のものに変えることができる。ひいては、高輝度化を図ることが可能になる。また、散乱割合の分布を変化させることにより、光出射面の輝度分布が変化するので、エッジライト型の照明装置において、用途に応じて、光出射面の輝度分布を所要のものに変えることができる。また、第 1，第 2 の散乱領域は例えばドットを印刷することで形成可能であり、かつ散乱制御構造も入射光を一律に散乱又は透過するようモード切替するものであることから簡単な構成で済むため、散乱割合分布変更手段を簡単にかつ低コストで構成することができる。